

42 破天荒

令和 二年度版
創刊
第四十四号



二〇二一年の幕開けです。今年も相生高校の一年は、綺麗な日の出から始まりました。四十二回生には、大変縁起の良いスタートを切る事ができそうです。さあ、勝負。

今の自分を常に意識

して直前まで自分を鍛えぬくこと。その準備を怠らぬこと。勝負の当日は、意識するのは「勝ち」ではなく

今の自分を常に出し切る

ことに集中しよう。

今までは「夢」を追って来ました。さて、その夢を、「目標」として追うことができているか？
一番怖いのは、先への不安から、闘う前に「よくやったよな」と、ご褒美をあげようとする事です。

闘いはここから始まる

不安を感じていいんだよ。何故なら、本気だからこそ。
勝利に絶対はない。だから、手に入れた隙を埋めるためにも、「自分越え・自分を出し切り」を求め続けて、自分を鍛え続けよう。目標にみる事ができてこそ

叶う夢となる

自己満足で、自分を鍛える苦しさから解放させてはいけません。ゴールまで一メートル前まで頑張っても、ゴールを通過しなければ記録なしです。結果を出してから、ようやく次のレースのことを考えることができます。
その自分のゴールを、しっかりとクリアしていないことを理解し、数多くの合格から、どれを次のスタートとするかを、最後に考えよう。

さあ、三年間の集大成の三か月です。最後まで自分を見失わず、笑顔も忘れずに、歯を食いしばって、一日一日を乗り越えよう。

学年副主任 垣見信三先生

激 学年の先生方より

進路が決定している人へ

「之を楽しむ者に如かず」です。一人ひとりの「峰」を見据え、高校でしかできない「学び」を楽しみながら続けて下さい。そして、自らの「裾野」を少しでも広げて下さい。

私大、国公立大の受験に臨む人へ

何よりも健康に留意しよう。共通テストが迫るにつれ、誰もが多かれ少なかれ、不安や焦りを抱くと思います。が、せめて身体面だけは万全な状態にして当日を迎えたい。そのためにも、家の人に協力してもらい、できるだけ家族との会話をしながら食事をする。体を動かして快便を心がける。一定の睡眠時間をぜひとも確保する。昨日、今日、明日…と変わることなく、一日一日規則正しい生活を送ることが、今は一番大切だと思います。

身体面の最良の状態を維持するとともに、各教科でやるべきことを着実に実践して行って下さい。そして、みなさんが精神面のゆとりを実感しながら、共通テストに挑み、持てる力を出し切ることを期待しています。

空晴れてあり。いざ。

学年副主任 田淳平先生

『インスピレーションを待っていたら、何も書けない。私は毎朝必ず作曲する。そうすると、神様がインスピレーションを送り込んでくださる』

これは、ロシアの作曲家であるチャイコフスキーの言葉だそうです。本当に神様がいらっしゃるのかどうかは別として、皆さんにはぜひ言葉中の、インスピレーションをやる気、作曲を勉強、にそれぞれ読み替えてほしいと思います。今現在、やる気がなくて勉強が進まない…ということはないと思いますが、試験が近づくことによる焦りや不安、緊張などの気持ちがあって勉強に手がつかないことがあるかもしれません。しかし、これらを払拭できる、とりわけ試験本番の緊張を振り払うのは、自分がしてきた勉強だと思います。これまでの積み重ねてきた自分のペースを崩さずに、全力で頑張ってください。ところで、チャイコフスキーという人物を知っているでしょうか。白鳥の湖やくるみ割り人形といったバレエ音楽を作曲した人です。私は自分自身を奮い立たせるときに音楽の力をかります。科学的な根拠は不明ですが、チャイコフスキーの交響曲第 4 番 4 楽章なんかは非常に力が湧いてくる、精神面のサポートになった曲です。長い曲なので全て聞くのは大変ですが…。試験本番に自分の力が 100% 発揮できるように、(勉強だけでなく体調や精神面を整えることも含めて) これからの時間を使ってください。応援しています。

1組担任 山本真輔先生

新年あけましておめでとうございます。さて、いよいよ勝負の時が近づいてきました。三者面談や休み時間や授業の中で君たちの気持ちを揺さぶるようなことも言うてきましたが、ここまで来たら後は自分を信じてやり切るのみ。誰のためでもない、自分のために頑張らしましょう。共通テスト、私立大入試、国公立大入試、それぞれの当日、自分が持てる最大限のパフォーマンスが発揮できるように、試験当日を勝ち抜くための良いイメージを作っていきましょう。そのためには、試験会場に持って行き、直前の休み時間に見る問題集、参考書、ノートを選び出しましょう。体と脳の疲労を回復させる食べ物(お菓子を含む)・飲み物を準備しましょう。弱気になりそうなき、自分を励ますためのアイテム、音楽、(こういうときにだけ神様にすがっても罰は当たらないと思いますので) お守りを準備しましょう。どうですか、準備オッケーですか？夜明け前こそ一番暗いと昔から言います。

迷わず行けよ、行けばわかるさ

人事を尽くして天命を待ちましょう。頑張れ 42 回生！

2組担任 前田嘉暢先生

君に告げる

「毎日」が勝負 本番は「数日後」ではなく 「毎日」が本番
 今日が本番であれば 明日が本番であれば 力を出し切れるか
 覚悟はできているか
 一日一日 一分一秒 もう戻ってはこない貴重な時間
 大切にしよう 「今」という勝負の時

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。
 さて、高校生活も残り2か月となりました。しかし、進路未決定の者はここから勝負です。コロナ禍で、焦り・不安は私が受験生だった頃より何倍も大きいと思います。しかし、今はただやるしかない。まずは1週間後の共通テストで自分の力が発揮できるように、この1週間の過ごし方を考えてください。受験前に特別なことをしない。リズムを崩さないことが大事です。受験時の1番の精神安定剤は『自分ではできることはやってきた』という自信です。
 そして、進路決定者は残りの授業をしっかりとする。4月当初にも言っていたように、最後の1人の進路が決定するまで受験は終わらない。冬休みも正月も安心して過ごせなかった者がいる。自分が逆の立場ならどう感じるのか、どういう行動をとるべきなのか。答えは1つだと思います。行動で気持ちは伝わります。
 皆の頑張りが結果につながるように、42回生一丸となってこのコロナ禍の受験に打ち勝とう。努力してきた者に結果がついてきますように。

3組担任 平地悦子先生

4組担任 山村亨先生

新年あけましておめでとうございます。時間がたつのは早いもので、相高42回生としての最終学期が、ついに幕を開けました。
 まずは、すでに進路を決定した人たちに「合格おめでとう」の言葉を贈ります。これまでの自分の取り組みに誇りをもち、さらに向上心をもって高校生活を全うして下さい。
 そして、これから受験に臨む大多数の人たちを待ち受けているのが「大学入学共通テスト」です。これからは学習面の対策も必要ですが、試験本番に向けての「心構え」も大切になってくる時期です。以下のポイントを押さえて、共通テストに臨もう。

①試験当日の過ごし方も考えておこう

共通テスト当日は、試験開始までの待ち時間の過ごし方も大切なポイント。参考書やノートなどで最終チェックをする、リラックスして待つなど、どんなふうにも過ごせば自分の実力が最も発揮できるのかを、過去の模試や演習などを利用して確認しておこう。

②優先順位をつけて問題を解くこと

時間を有効に使うためには、問題を解く順番も大切。解き始める前にすべての設問に目を通し、確実に解ける自信のある設問から解くよう心がけよう。

③自己採点を正確にするために

個別学力検査の出願は、共通テストの自己採点結果をもとに決定することになる。自己採点を正確に行うため、解答した選択肢番号や数値等を問題冊子に必ず控えておこう。

④1点も無駄にしないマーク記入ルールいろいろ

- ・わからない設問があっても、とにかくすべての設問にマークすること。
- ・訂正をする際には、跡が残らないよう完全に消しゴムで消すこと。
- ・複数解答ではない設問に、2個以上のマークをしていないかを確認すること。
- ・「記入欄のズレ」などはないか、問題冊子と突き合わせて確認すること。

つらいときは、自分が歩んできた道のりを思い出し、コロナを吹き飛ばさんばかりの強い気持ちで、進路実現を勝ち取ってください。みなさんの健闘を祈ります。

5組担任 山本一芳先生

今、何をすべきか

大学入学共通テストまであと約1週間。今、何をすべきか考えてみよう。
 残り時間が少なくなり焦っても仕方がない、効率よく復習するしかない。効率よくとは…。この数ヶ月の受験勉強で理解したことの確認であると、私は思う。もう一度、一番使い込んだ問題集を解き直すのだ。暗記が中心となる分野がベストであろう（理系の場合は無機分野・文系の場合は原子の構造と周期表）。
解き直す時には、答を導くだけではなく、時間をじっくりと掛け、問題の背景にある関連知識を想像して欲しい。例えば、次の問いであればどうであろう。

問. 打ち上げ花火はさまざまな元素に特有の発色を利用している。これと同じ原理にもとづく発色の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから二つ選べ。

- ① 白金線に塩化銅(II)水溶液をつけて炎にかざすと、青緑色の炎が見えた。
- ② みそ汁が吹きこぼれたとき、コンロの炎が黄色に見えた。
- ③ 青色のリトマス紙をレモン汁につけると赤くなった。
- ④ ヨウ素の固体を加熱すると、紫色の気体が発生した。

すぐに①と②と解けるであろう。しかし、正解でない③から、ヨウ素の昇華性を振り返ってほしい。更には、昇華をキーワードにドライアイス・ナフタレン・p-ジクロロベンゼン(防虫剤に利用)も思い出してほしい。使い込んだ問題集の設問をじっくりと振り返るこの学習方法は、他の教科にも通じるはずである。君たちの最後の踏ん張りに期待する。

学年の先生方だけでなく、三年間の中でお世話になった先生方、二年間に始まり、このコロナウイルス禍でのみんなの困難、不安、努力を見て下さっています。共通テストが、当たり前前に開催されることを祈り、開催された際には、その場を提供下さる方々へ感謝し、自分たちの持ち得る力を発揮することで、恩返しができるように、この一週間、まずは健康であり続けること。後悔のない毎日でありたい。

三が日のお茶の間テレビから

お正月に見たテレビから、是非紹介したい、是非、心してほしい、同じ場面に出会ったときに生かしてほしいと感じたことをいくつか紹介します。

最近では、スマホと言う革新的な道具の出現によって、よく言えば無駄がない、が、逆に言えば、実は余裕がなくなっていると思えることが結構見受けられます。便利な反面、調べもの等の切り取り方がピンポイント過ぎて、誤解をしてしまうことや、言われたことはやるけれども、それ以上の膨らみに繋がらない……。

無駄のように思える中に意外な発見があることや、新たな一歩のきっかけにもなることが、皆さんに伝わればと思います。

ある保険会社のCMより 北原白秋作詞 山田耕作作曲 の「この道」にのせて

無邪気な「行ってきます」 元気な「行ってきます」
無言の反抗期の「行ってきます」
大人になった「行ってきます」
新たな人生の出発の「行ってきます」
そして 新たな家族とともに「ただいま」

コロナウイルス禍では放映が中断されていたCMでしたが、胸を打たれるCMです

筋書きのないドラマ スポーツより

1. コロナウイルスの影響による全国大会出場、および、対戦辞退

高校バスケットボールウィンターカップ、ラグビー大学選手権など。闘って大敗する以上に、悔しい負け。自分達の力を発揮し、ぶつかってこそです。

大学ラグビーで決勝に進出したチームのうち、天理大学の主将は、兵庫の甲南高等学校出身です。「天理のラグビー部員全員の勝利だと思っている。先輩たちがいままで培ってきたものを無駄にしないで、この試合に向けて努力してきた結果だと思う。自分達から、痛い動きをしようとしたこと、つまり、ディフェンスでのプレッシャーをかけることができた。応援し、サポートしてくださった方々や、関西のチーム、ともにつらい思いをしてきたメンバーたちの分も背負って、いい準備をして優勝したい」

夏に部内でクラスターとなったため、自校の応援すら大学から人数制限された中、深く太い絆で決勝まで勝ち上がったチーム。緊急事態宣言の要請が、東京都からされましたが、せめて自分達のチームの応援くらい認められればと、思っています。

天理大学の監督は、冷静に「日本一を目指すなかで、もう1試合できるということが非常にありがたい。いい準備をして決勝戦に臨みたい」。そのために、我々ができる当たり前を、継続して行動したいものです。

共通テストは実施方向とされています。ただ、万全を期した状態で臨めるよう、テスト直前まで体調管理の徹底をおこなって欲しいし、万全の状態テストを受験してほしい。

2. 関東大学箱根駅伝10区まさかの大逆転

勝負に絶対はない。99%では、勝敗濃厚であって、勝敗決定ではない。最後の最後まで諦めない。忘れないでほしい。加えて、次の放送コメント

「初めての総合優勝には届かなかった。目標は総合3位でした。目標達成とみればうれしい準優勝、ただ、悔しい準優勝となったか。2位で悔しいと思えるチームになった創価大学、準優勝！この悔しさを来年につなげます」

さらに、監督の10区選手に対する言葉

「この悔しさを一生忘れるな。でも、卑屈になることはない。この悔しさをバネにして成長すればいい」

一方、心が痛かった沿道の応援……我慢できない”他人”

選手は、ずっと支えてくれた家族、恩師などの多くに、「テレビ観戦」の要請を、自分の本意ではなく行っていた。

なのに、テレビの画面には心ない無配慮な声援、他人の併走、目立ちたがるかぶり物をする他人。皆ならどう行動する？

選手、開催者の想いを汲むことができない他人。そんな他人とはなりたくないものですね。

3. 悪質タックルを受けた選手の最終試合 関学大アメリカンフットボール部

「そんなつもりはなかったのに、試合が終わった瞬間に、涙が出てきた。小1から16年間やってきたアメフトが終わってしまった寂しさと、何不自由なくやらせてくれた両親への感謝がある。何らかの形でアメフトに恩返し出来たらと思います」約3年間、この話題を背負い続けたこの選手。アメフトを嫌いにならなくて良かった。

今後の予定

一月	八日(金)	始業式 3～6限 授業
	十一日(月)	成人の日
	十二日(火)	通常授業 十四日まで
	十五日(金)	四限まで 共通テスト激励会
	十六日(土)	七日(日)
	十八日(月)	共通テスト 於 関西福祉大学
	十八日(月)	共通テスト自己採点
	十八日(月)	未受験者は自習の用意
	十八日(月)	～二十九日(金)
	十八日(月)	午前中授業(特別時間割)
	二十五日(月)	いじめアンケート
	二十九日(金)	学年集会・大掃除・LHR
	二十九日(金)	※ 翌週より、自由登校
	二十九日(金)	二次対策補習開始
二月		
	三日(水)	卒業認定会議
	二十六日(金)	卒業式予行・皆勤賞等表彰式
	二十七日(土)	※ 通常時間登校・皆勤賞対象日
	二十七日(土)	卒業式 十時～(予定)

この予定が、予定通りとなることを祈りましょう。

休日学ぼうクラブ 活動日誌

コロナウィルス禍の中、「学習の場を設けることができれば」ということで、夏休みを前に立ち上げた『休日学ぼうクラブ』もあと数か月となりました。

クラブの趣旨を理解し、勇気をもって生徒達を送り出して下さった保護者の皆様には、あらためて感謝申し上げます。気付けば、入部を希望した生徒は、ほぼ30名を数えることとなりました。

勿論、常にそれだけのメンバーが参加し続けたわけではありませんが、常時15～20名の生徒が、自分が申告した時間に登校して、各々が自学に励む姿を半年間見させてもらえました。

これだけの期間、これだけの人数とともに、同じ時間を共有できるとは正直考えてもみませんでした。とても幸せな時間を一緒に過ごせたことは、42回生の闘いに、必ず結果を伴わせてやることを誓わずにはいられません。

想い・願望だけでなく、参加生徒は、今も闘い続けてくれています。自分達が決めた「当たり前」を積み上げた事実を「自信」にして欲しいと思います。

併せて、その同じ空間で3年間ともに学び続けた「チーム42回生」全員に、「自分超え」「自己新」「達成」「新たなスタート」となっていくように、各々の「当たり前」をまだまだ貫いていこう。

保護者の皆様も、もう一押し、生徒達を支えてやってください。



クラブ参加生徒から、共通テストと全く同じ時間帯で、テストを体感したいとの申し出がありました。

「拘れることは拘り、やりつくそう」と、12月27・28日(日・月)に、主に駿台予備校青パックを利用して、暗くなるまで挑戦しました。

ゲスト参加者も認めたところ、ゲストの生徒の中から、新たに年明けから新規入部者も。

あと僅か。先を急がず、

目指せ、自分超えの日々

年末最終日には、帰省された坂本先生と、転勤された村住先生が、激励に訪れてくれました。

ただ、この日は暴風が吹き荒れた30日。何よりも、生徒達の意欲を後押しして下さり、「頑張ってきて」と参加を承認して下さい、保護者の皆様に感謝します。

